

広がる!

わかやま

和歌山ワーケーション

問 情報政策課 ☎073-441-2407 FAX073-428-1136

和歌山県は、日本におけるワーケーション「発祥の地」であり、新型コロナウイルス感染症拡大前の2017年から全国に先駆けて、真の働き方改革をめざしたワーケーションの普及を推進してきました。『いつもどおり』の仕事をしながら『いつもと違う』場所で『いつもと違う』経験や体験をすることができる本県の取組は、全国から注目を集めています。

ワーケーションは、地域を訪れた方々との交流を通じて、地域課題解決のきっかけとなるとともに、移住や企業誘致、起業に繋がる^{つな}ことが期待されています。県では、ワーケーションの魅力を普及・発信していくことで、地域の活性化を図っていきます。



ワーケーションとは

ワーク(仕事)とバケーション(休暇)とを掛け合わせた造語で、テレワークを活用することで、リゾート地や温泉地など、普段の職場とは異なる場所で働きながら地域の魅力に触れることのできる取組です。

ワーク + バケーション = ワーケーション
Work + Vacation = Workation



和歌山ワーケーションがめざすところ

わかやま

ワーケーションの効果

ワーケーションは、取り組む企業はもちろん、受け入れる地域にとってもさまざまな効果が生まれます。

企業にとっては、非日常な環境で仕事を行うことで、社員の心身の健康を保ち、生産性を高め、より良いワーク＆ライフスタイルを実現することができます。一方で、地域にとっては、交流人口の増加により、さまざまな経済効果を期待することができ、地域の活性化にも繋がっていきます。

企業

- ◆ 非日常な環境下での創造力喚起
- ◆ 新しい形での社員研修・開発合宿
- ◆ 社員のモチベーション向上
- ◆ 働き方改革

地域

- ◆ 観光振興の手段
- ◆ 来県者の消費活動
- ◆ ワーケーションサポートビジネスの発生
- ◆ 企業誘致や移住定住への手がかかり

梅農家での収穫作業を通じて、人手不足の解消や、関係人口の拡大を図ります。

梅収穫ワーケーション



ワークショップ



地元企業との意見交換を通じて、地域課題の解決策を探ります。

地域 企業

それぞれの課題解決に向けた相乗効果

インタビュー



なかはや果樹園
代表 中早 大輔さん

参加者は、忙しい農家を少しでも助けたいという気持ちで一生懸命手伝ってくれました。それぞれの考えや地域貢献への思いに触れることで、刺激を受けました。

梅収穫ワーケーションは、ただ人手不足を補ってもらうだけでなく、参加者と繋がり、新たな人脈を作る機会にもなります。地域を客観的に見ることが出来る参加者から意見を得ることはとても大事で、事業や地域の発展に繋がると考えています。地域側として、ワーケーションにもっと協力できる仕組みを整え、相互にWin-Winな関係を築いていきます。

インタビュー



株式会社リコー
働き方変革推進担当
鶴井 直之さん

造につながると感じました。

普段の職場と異なる場所での出会いや体験が企業の価値向上と社員の自己成長に繋がる、それがワーケーションの価値だと思います。コロナ禍で人との出会いや交流が減ってしまった今こそ、たくさんの人にワーケーションを実践してほしいです。

自然を実際に肌で感じたり、地域の方々と交流する経験は、リモートで得られるものではなく、当初の期待を上回るものでした。地域ならではの課題や可能性を一緒に考えることも、新たな価値創